

2018年6月7日

## 富士ゼロックスの高度な複写技術を駆使し、 お告げのマリア修道会所蔵「ド・ロ神父記録簿 日日の帳」 を複製、文化伝承に貢献

### 富士ゼロックス長崎が旧出津救助院に贈呈

富士ゼロックス長崎株式会社（本社：長崎市 社長：清村 栄一）は、伝統文化継承に貢献する活動の一環として「お告げのマリア修道会」に所蔵されている「ド・ロ神父記録簿 日日の帳」<sup>注1</sup>の複製を製作、6月7日、旧出津救助院（長崎市外海町）<sup>注2</sup>で行われる贈呈式で、代表取締役・秋山富也から、同救助院を運営・管理している一般社団法人「ド・ロさまの家」川田正勝代表理事に贈呈いたします。レプリカは同救助院で所蔵され今後展示されます。

古文書などの伝統文書の原本は劣化のおそれがあるため展示期間も限られるほか、不特定多数の閲覧者が手で触れることができないことが一般的ですが、複製品であれば所蔵者は劣化の心配なく展示できます。また、直接手にとり感触も確かめることができるため、文化伝承に貢献できます。

複製品製作にあたっては、富士ゼロックスのカラーマネジメント技術を活用し、電子化した画像情報を用紙に出力して原本の風合いを再現させました。出力はグラフィックアーツ市場向け高画質フルカラー複合機「[DocuColor 1450 GA](#)」を活用し、455頁からなる記録簿のインクで書かれている筆記体の濃淡の表現、ピンクとブルーの罫線の再現のため、出力テストを何度も繰り返し、表紙は色あせた黒色、虫食いの箇所など詳細に再現して完成しております。



富士ゼロックスは、社会貢献の一環として伝統文書の複製を通じた文化伝承活動を 2008年から実施。現在は研究・開発の主要拠点である富士ゼロックス R&D スクエア（神奈川県横浜市）および京都を拠点とし、これまで神社仏閣、市町村、大学、企業などに 250 点以上の複製品を贈呈しています。

富士ゼロックス長崎は、地域社会への貢献も企業としての責務であるとの考えから、支援活動のひとつとして今回の古文書複製を行いました。また、変化し続ける環境のもと、地域社会のお役に立てる、そして愛される企業を目指してトータルソリューション提案およびサービスを展開しております。

今後も当社は「地域のために、地域と共に」のスローガンをもとに長崎県内の地域社会の発展や活性化に貢献してまいります。

注1： 今回複製した「日日の帳」9番資料は1891年1月1日から1893年10月25日までのド・ロ神父が残した金銭的な記録である。日記のように日ごとの出来事がわかる体裁になっており、救助院で食したと思われる人数、食材、その日の作業内容、仕入れや販売内容など克明に記載されているものである。

内容についてはとくに「普請」の文字が多く見られ、長崎市外海地域で工事が行われたことが読み解かれ、この年は出津教会第2期工事開始の年と一致しているなのでその時の記録ではないかと考えられる。

注2： ド・ロ神父は1868年（明治元年）に来日、1880年に出津教会を竣工。出津救助院はド・ロ神父の社会福祉活動の拠点で、国指定重要文化財の授産場やマカロニ工場、県指定史跡の製粉工場などからなり、現在見学できる施設となっている。

・Xerox、Xerox ロゴ、および Fuji Xerox ロゴは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。